

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第3学年 「国語（光村図書）」

171時間（70%）

週	重点に置く指導事項	単元名	教材名	時間数	留意点
<b>三上</b>					
1	Aイ 知・技(1)イ 知・技(1)ク	ことばのじゅん びうんどろ 詩を楽しもう	よく聞いて、じこしょうかい どきん 続けてみよう	1	・「よく聞いて、じこしょうかい」は、状況によって導入で扱うこととし、「どきん」では、擬態語などの言葉に着目し、言葉の調子を楽しみながら音読することを中心の活動とする ・日記の書き方を紹介し、継続的に取り組ませていく
2	Cイ 知・技(1)ク 知・技(2)オ 知・技(2)イ 知・技(1)エ 知・技(1)オ 知・技(1)エ Aエ 知・技(1)イ 知・技(1)エ	1 読んで、そ うぞうしたこ とをつたえ合 おう	きつつきの商売 図書館たんていだん 国語辞典を使おう 漢字の広場① 春のくらし 漢字の音と訓 もっと知りたい、友だちのこと 漢字の広場②	1 2 - - 2 - -	・行動や会話、地の文などの描写を根拠に、登場人物の気持ちを捉えることを中心の活動とする ・図書館で本のつくりや分類の仕方について理解させる ・本時以外でも継続的に辞典を活用させる ・①②③をまとめて扱う ・P.98「夏のくらし」で扱う ・授業後もプリントなどで継続的に取り組ませる ・取り扱い時期を★に変更する ・①②③をまとめて扱う
	書写		毛筆の基本 漢字の筆使い	3	・学習用具の準備、片付け方や、姿勢、筆の持ち方を指導する ・点画の種類を確認し、穂先は左ななめ上に向け、筆軸を立てて持つことを意識させる
3	Cアウ 知・技(1)カ 知・技(2)ア	2 段落とその 中心をとらえ て読み、かん そうをつたえ 合おう	言葉で遊ぼう こまを楽しむ 【じょうほう】全体と中心	7	・「【じょうほう】全体と中心」を導入で取り扱い、教材文について段落とその中心をとらえて読むことを中心の活動とする
4	Bイエ 知・技(1)キ 知・技(1)エ	大事なことを考 えて、あんな いの手紙を書 こう	気持ちをこめて「来てください」 漢字の広場③	5 1	・学級全体で共通の相手に書くこととし、書く内容の中心を明確にして書くことを中心の活動とする（参考：県教委オンラインサポート授業） ・本時で①②③をまとめて扱う
5	Cエ 知・技(1)オ 知・技(2)ア	3 登場人物の へんかに気をつ けて読み、感 想を書こう	まいごのかぎ 俳句を楽しもう（※1） こそあど言葉を使いこなそう	6 1 1	・叙述を基に、場面の移り変わりや登場人物の変化を結びつけて、登場人物の気持ちを具体的に想像することを中心の活動とする ・リズムを感じながら俳句や短歌を読むことを中心の活動とする（「短歌を楽しもう」も扱う） ・こそあど言葉が文章中の何を指しているのかを理解させる
6	Bイオ 知・技(1)カ 知・技(2)イ	組み立てを考 えて、ほうこ くする文章を 書こう	【じょうほう】引用するとき 仕事のくふう、見つけたよ	12	・伝えたいことを内容のまとまりに分け、組み立てを考えて書くことを中心の活動とする ・報告文を読み合い、説明の仕方や調べたことについて感想を伝え合う
7	Cカ 知・技(1)オ 知・技(2)オ	3 登場人物の へんかに気をつ けて読み、感 想を書こう	夏のくらし はじめて知ったことを知らせよう 鳥になったきょうりゅうの話	1 4	・春と夏について図鑑などを使って調べて説明し合い、語彙を増やしていく ・自分で選んだ本から知った内容を相手に伝えることを中心の活動とする ・公立図書館と連携し、教室に本を用意して選ばせてもよい
	書写		漢字の筆使い 文字の組み立て	2 2	・始筆・送筆・終筆、筆を動かすリズムと筆圧を意識させる ・部首や部分の組み立てを意識させる
8	Cオカ 知・技(1)ク 知・技(2)イ Aオ 知・技(2)イ Aエ 知・技(1)イ	詩を味わおう 対話の練習 ききたいことを 考えて、しつ もんしよう	わたしと小鳥とすずと 夕日がせなかをおしてくる 山小屋で三日間すごすなら もっと知りたい、友だちのこと★	1 3 5	・2つの詩を読んで感じたことを共有し、それぞれの違いに触れ、他者の感じ方のよさを知ることを中心の活動とする ・テーマを基に、友達の中から出された意見を、付箋紙などに書き込んでグループ分けをし、共通点や相違点を話し合うことを中心の活動とする。 ・話し方や質問の仕方を理解させ、友達の話で心に残ったことを伝え合うことを中心の活動とする
9	Cオ 知・技(2)イ 知・技(2)ク 知・技(1)ク 知・技(1)ク	生活の中で読 もう	ポスターを読もう へんとつくり ローマ字	1 1 4	・2つのポスターを比較して相違点に気づかせ、相手や目的の違いについて考えることを中心の活動とする ・「へん」「つくり」が漢字のおおまかな意味を表していることを理解させる ・ローマ字の特徴について理解させる ・コンピュータのキーボード表記と関連させながら取り組ませる
	書写		漢字と仮名 配列	4	・漢字と仮名の大きさについて意識させる ・文字の中心や行の中心を意識させる（※手紙の書き方の学習と関連させてもよい）
<b>三下</b>					
10	Cエオカ 知・技(1)オ 知・技(1)カ 知・技(1)オ	1 場面をくら べながら読み 、感じたこと をまとめよう	ちいちゃんのかけおくり 修飾語を使って書こう 秋のくらし	7 1 1	・場面ごとの人物の心情を読み取り、物語全体に対する感想を伝え合うことを中心の活動とする ・修飾語の働きについて理解させる（参考：県教委オンラインサポート動画） ・「秋」について図鑑などを使って調べて説明し合い、語彙を増やしていく
11	Aアオ 知・技(1)オ 知・技(1)エ	進行を考えなが ら話し合おう	はんで意見をまとめよう 漢字の広場④	8 -	・話し合いがまとまるような司会の進め方に重点を置いて指導する ・④⑤⑥をまとめて扱う

12	Bウ Cウ 知・技②イ ③オ	2	れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう	すがたをかえる大豆	6	・筆者の考えとその根拠となる例の書かれ方を捉えながら読むことを中心の活動とする
13	知・技③イ			[じょうほう] 科学読み物での調べ方 食べ物のみみつ教えます	8	・自分の考えとその根拠となる事例との関係を明確にして書くことを中心の活動とする
14	知・技④ウ			ことわざ・故事成語	3	・国語辞典をつかってことわざや故事成語を調べ、語彙を増やしていく
	知・技④ア			漢字の意味	1	・設問は家庭での課題とし、後日、確認を行う
	知・技④エ			短歌を楽しもう	-	・「俳句を楽しもう」(※1)で扱う
				漢字の広場⑤	-	・④⑤⑥をまとめて扱う
	書写			書きぞめ	2	・書き上げた作品は、観点を定めて、互いの作品を評価し合う時間をとる
	Cイエ 知・技④オ	3	組み立てをとらえて、民話をしようかいしよう	三年とうげ	5	・物語の組み立てを捉えさせ、民話や昔話のおもしろさを紹介し合うことを中心の活動とする。
15	Bイオ 知・技④オ		組み立てにそって、物語を書こう	たから島のぼうけん	8	・文章の構成に着目させ、書こうとしたことが明確に伝わっているかを確認し合うことを中心の活動とする
				冬のくらし	1	・「冬」について図鑑などを使って調べて説明し合い、語彙を増やしていく
16	Cオ 知・技④ク		詩の楽しみ方を見つけよう	詩のくふうを楽しもう	2	・6つの詩の中から、おもしろい表現の工夫があると思うものとその理由を出させる ・おもしろい表現の工夫を使って自分で詩を作らせることを中心の活動とする
	知・技④エ			カンジーはかせの音訓かるた	1	・漢字の音と訓を使って、リズムのよい歌を作らせる
	知・技④エ			漢字の広場⑥	1	・本時で④⑤⑥をまとめて扱う
	Cオカ 知・技④カ	4	読んで感想をもち、つたえ合おう	ありの行列	5	・読んだ感想を伝え合い、自分の考えと比べながら友達との感じ方の共通点や相違点を見つけることを中心の活動とする
17	Bアウ 知・技④アオ		言葉について考えよう	つたわる言葉で表そう	4	・一番伝えたい場面について詳しく思い出し、自分の気持ちや表したい様子に合う言葉を選んで相手に伝えることを中心の活動とする
18	Bウオ 知・技④オ		しようかいして、感想をつたえ合おう	これがわたしのお気に入り(※2)	9	・お互いの文章の内容や書き方のよいところを伝え合うことを中心の活動とする
	知・技④ク			コンピュータのローマ字入力	2	・(※2)の学習で書いた文章をコンピュータ入力させるのもよい
19	Aイウ 知・技④イウ		つたえたいことを、理由をあげて話そう	わたしたちの学校じまん	8	・伝える相手や目的を考え、伝えたいこと理由を明確にして話すことを中心の活動とする
20	書写			まとめ	2	・3年生のまとめとして、学習したことを生かして自分の名前などを書かせる
21	C 知・技④オ	5	登場人物について、話し合おう	モチモチの木	9	・1年間の「読むこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する

## ※時間数の精選方法(例)

### ○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする

・複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力(指導事項)を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、教材「仕事のくふう、見つけたよ」では、指導事項イ・オの「全体の構成を考えることや共有すること」を中心に指導し、教材「食べ物のみみつ教えます」では、指導事項ウの「自分の考えとその理由や事例の関係の書き表し方について工夫すること」を中心に指導を行います。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」も同様です。

### ○家庭での課題として取り組ませることで、学習を補う

・言葉に関する学習に出てくる設問などは家庭での課題として取り組ませ、後日、確認を行います。「漢字の広場」については既習内容があるので、①②③、④⑤⑥をそれぞれ1時間としてまとめて扱っています。

### ○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が「知識及び技能」(3)「我が国の言語文化に関する事項 オ」になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。言語活動例を参考にし、読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。教材「図書館たんていだん」「はじめて知ったことを知らせよう」の学習から、学校図書館や地域の施設を活用し、家庭での読書につなげることも可能です。

### ○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導に関しては、小学校3学年では年間30時間程度行うものとありますが、光村図書では、短歌を書いたり、パンフレットを書いたりする「書くこと」の領域の学習において、例えば短冊の書き方やパンフレットのページの割り付けで文字の大きさや配置配列といった指導事項をおさえることが可能です。(本資料では、書写に取り立てた指導を15時間(50%)で作成しています)

### ○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や児童の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。